

# 交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2019年2月26日

No.13

**会社：輸送量は計画を下回っているが  
収入計画は順調に進んでいる**

**組合：職場では待遇不満を理由とした退職が後を絶たない  
組合員の奮闘に対してベースアップで応えるべきだ！**

～2019 JR 総連春闘 第2回交渉報告～

中央本部は、本日第2回春闘交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。  
主な内容は以下の通りです。

## 【事業開発部門】

- ① 1月期計画に対してはほぼ計画通りに進んでいる。八王子分譲マンションの引渡しは少し遅れているが販売は順調に進んでいる。
- ② 昨年9月に着工した東京レールゲート WEST は基礎工事中である。現在はテナント誘致を進めている段階であり、少しずつ借手が決まってきている。
- ③ 鉄道事業部門は通運事業者へのトラック駐車料金など、一時貸付を含めた土地・建物貸付の拡大等により、1月期改定計画の達成を見込んでいる。

## 【鉄道事業部門】

- ① 1月期のコンテナ収入は88.08億円、車扱は13.53億円、合計で101.61億円である。コンテナ輸送量は東北むけの専用列車が出ているため前年比103.0%、車扱輸送量は暖冬の影響があり石油の動きが悪く前年比97.8%である。
- ② 年度累計の輸送量は対前年比を割り込んでいるが収入は10月の賃金改訂効果が表れている。山陽線災害復旧の関係で貨物列車2本の運休がダイヤ改正まで続くが、ダイヤ改正後は運転再開する。

## 【組合の主張】

- ① 職場では安全輸送を徹底し、会社の収入確保に全力をあげている。しかし、関連会社を含めて賃金が低いことを理由とした若年退職者が後を絶たない現状がある。
- ② 山陽線100日間の災害不通から荷物は戻ってきており、トラックドライバー不足によるフォローの風ばかりではなく荷主の信頼を得た利用運送業者の努力の賜物である。今冬は雪害も少なく減収要因は少ない。
- ③ この間の組合員の努力に対して、会社としてのベアで応えるべきである。

## 【会社の回答】

- ① 組合の指摘について真摯に受け止め、回答指定日にむけて今後の交渉を積み重ねていきたい。
- ② 賃金の改善は人事制度の改正を含めて議論をしていく。要員確保のために採用者の増なども考えていかなければならないと思っている。

中央本部は、「定期昇給4号俸の確保を前提としてベアを要求している。今日の会社の説明を聞くかぎりベアを出せない理由が見当たらない。昨年は19年ぶりのベアを実施したが、今年はベアゼロ回答ということは有り得ない」ことを主張し交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は、3月1日（金）です。